

国 語 (A2日程)

(解答はすべて解答用紙に記入しなさい)

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問題の都合上、一部省略した部分があります。)

心がざわついた時、一つの思い込みにとらわれた時、自分の視点を変えたいと思った時、私は坐禅¹をすすめています。背筋をまっすぐに伸ばして、おへその少し下の丹田に意識を集中させて静かに座る時間です。そしてまずは、ゆっくりと息を吐きます。呼吸の「呼」とは息を吐くこと、「吸」は息を吸うことです。「呼」が最初にきているということは、呼吸とはすなわち息を吐くことから始まるのです。息を吐き切れれば、放っておいても人間は息を吸おうとします。身体が要求するのに做^なって息をゆっくりと吸う。これが座禅の基本です。

目を半眼^{はんげん}にして、何も考えないようにする。頭にはいろんなことが浮かんでくるでしょう。それこそ「ああ、自分は孤独^{こど}だな」とか「明日は誰を誘^{まね}おうかな」など、余計なことも頭には浮かんでくるものです。それでもいいのです。大切なことは、頭に浮かんできたものにしがみつかないで、さらっと頭から追い出すことです。「孤独^{こど}だな」と思っても、すぐにそれに取り合わないことです。頭に浮かんだ心配事や不安感などに執着^{しよく}さえしなければ、たいいていのは心から流れていくものです。

(中略)

情報が溢^{あふ}れている時代です。常に手にもっているスマートフォンから流れてくる情報は留^{とど}まることはありません。その押し寄せ

る情報にどっぷりと浸^{ひた}かってしまうと、いつしか自分の力で考えることが危^{あや}うくなってくるような気がするのです。人間の能力が、2を優先させるあまり、退化しているような気がしてなりません。スマホの中にはたくさんの電話番号

が登録されています。話したい相手の名前を打ち込めば、それだけで電話はつながります。素^す晴^はらしく便利な道具です。私が若^{わか}かった頃^{ころ}には、必要な相手の電話番号は頭に入^いっていました。小さな住所録も持ち歩いていましたが、それでも大切な人の番号はすべて覚えていたものです。それは私の記憶^{おぼ}力が良かったということではありません。多くの人たちが同じようにたくさんの電話番号を記憶^{おぼ}していました。

また、誰かの家を訪^まねる時も、道順はすべて覚えていたものです。初めて行く時には、しっかりと周りの景色を頭に刻^きみ込みながら、その道順を覚えようとしていたのです。A、一度行^いったことのある場所は、次からは簡単に行^いくことができました。今や、そんな道順など覚えなくても、スマホのナビや車のナビが教えてくれます。

私は現代³の便利な機器を否定^{ひてい}しているわけではありません。私も仕事ではパソコンを使^{つか}いますし、スマホももっています。

B、それらの機器に振り回されないように心がけています。パソコンやスマホを使うのは仕事で必要な時だけです。私たちが禅僧には日々のお勤めがありますから、現実的にスマホなどを眺めている暇など限られています。必要最低限の時だけ便利な道具に頼る。そしてそれらが必要のない時には、画面を見ることはありません。そんな無駄な時間があるのであれば、他に考えるべきことは C ほどあるからです。

現代社会では、物事を深く考えることができない。そんな人間が増えていっているような気がします。物事を深く考えなくなるとどうなるのでしょうか。一つには一方的な見方しかできなくなります。流れてくる情報を鵜呑みにして、それ以外の情報をシャットアウトしてしまうことになるでしょう。その結果として偏った考え方しかできなくなります。

あるいは流れてくる情報を次から次へと取り入れようとするので、いったい自分の本当の考え方はどこにあるかが分からなくなってきました。いつも他人の考え方に引きずられ、他人の受け売りをするようになります。それは自分の人生を生きているのではなく、誰か他の人の人生を生きていることと同じではないでしょうか。

人生の中にはさまざまな選択肢が待ち受けています。言うなれば人生とは選択の連続なのです。今の仕事を続けるか、それとも辞めるか。この人と結婚するかしないか。自分の歩むべき道は、はたしてこの道でいいのか。目の前には大切な選択肢が次から次へと現れてきます。そんな時、どのようにして歩むべき道を選ぶのでしょうか。その答えはスマホのアプリの中には入っていません。一生懸命に検索しても、そこに答えなど見つかるはずがありません。選択するのは自分自身なのです。そして自分が選択した限りは自分が責任をもたなくてはならない、ということになります。時には選択を間違えることもあるでしょうが、それとて自身の責任です。あなたの人生を生きているのは「あなた自身」なのですから。

人が生きていくためには、知識と知恵が求められます。どちらも大切なものです。知識を手に入れるためにスマホを開く。それは悪いことではありません。そこに出てくる知識を取捨選択して、自分に取り入れられればいいということでしょう。しかし、そこに知恵は表示されません。なぜならば、知恵というものは自身が考えることでしか生まれてこないからです。誰かから知恵を授けてもらうことはあるでしょうが、それでもそこには自分自身の頭で考えるという作業が求められるはずです。

知恵とは単に記憶するものではありません。知識を上手に使いながら、自分の考え方を足していくことで、初めて生まれてくるものです。言い換えれば、知識とは人生を歩んでいくための地図。知恵とはその人生の道を照らしてくれる明かりということにな

るでしょう。

現代社会だからこそ、⁵一人の時間を大切にしてほしいと思います。誰からも邪魔されることもない。スマホからも自由に解放される時間です。そんな時間をもつことで、私たちは自らの人生について考えることができるのです。

そしてその孤独な時間こそが、きつとあなたを成長させてくれるはずです。これから先、どの道を歩むべきかを教えてください。何が自分の人生にとって大切なのかを示してくれるのです。溢れる情報を冷静になって眺めることです。そこに1000の情報 が流れていたとしても、本当にあなたにとって必要なものは一か二くらいのものだと気づいてください。

(出典 梶野俊明『ひとり時間が、いちばん心地いい』PHP文庫による)

問一

A・Bに入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア AⅡしたがって BⅡしかし
イ AⅡつまり BⅡまた
ウ AⅡそれでも BⅡたとえば
エ AⅡなぜなら BⅡむしろ
オ AⅡでは BⅡすると

問二

Cに入る言葉を、漢字一字で答えなさい。

問三

線1「坐禅」とありますが、坐禅をするときに気をつけることとして、適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 背筋をまっすぐに伸ばした状態にすること。
イ おへその下のあたりに意識を集中させること。
ウ 身体の要求に応じて息をゆっくりと吸うこと。
エ 目を半眼にして何も考えないようにすること。
オ 集中できなかつたら坐禅を中断すること。

問四

2に入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 協調性 イ 多様性 ウ 利便性 エ 積極性 オ 独自性

問五

――線3「現代の便利な機器」とありますが、筆者の機器との向き合い方が示されている一文を、本文中から十八字で抜き出し、最初の五字を答えなさい。(句読点等も一字と数える。以下の問いも同じ。)

問六

――線4「知恵」の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア スマホを開くと簡単に得られる情報であり、取り入れやすいもの。

イ そのまま頭に記憶しておき、必要になったら取り出すことができるもの。

ウ 人に教えてもらったとおりに再現できるかどうかが重要視されるもの。

エ 得た情報をもとに、自分の考え方を加えていくことで生まれるもの。

オ 自分の人生を歩んでいくための道が記された地図のようなもの。

問七

――線5「一人の時間」を大切にすることでのどのような良いことがありますか。四十字以内で説明しなさい。

問八

本文の内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 現代は情報が溢れている時代なので、スマホに流れてくる情報はあてにならない。

イ 自分にとって大切な人だという強い思いは、その人の情報を覚えるのに役立つ。

ウ 記憶力を鍛えるためにも、誰かの家を訪ねるときはナビに頼らないほうがよい。

エ 自分の人生が他人に支配されないように、他人の意見は聞かないほうがよい。

オ 人生は選択の連続であり、その選択には自分が責任を持たなくてはならない。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問題の都合上、一部省略した部分があります。)

しばらくして、早緑は口を開いた。

「あのね、六花。あたしさ、ずっと言いたかったことがあって」

その真剣な声に、覚悟を決めたような表情に、さっと心が冷えるのを感じた。無意識に体がぎゅっと縮こまって、ようするに私はこわがっているらしい。

わかったからだ。早緑が、あの日の続きを話そうとしているって。

逃げだそうかと、一瞬思った。

このまま立ちあがって、ふり返らずに立ち去ってしまおうかと。

だけど……。

――じゃ、なかなかおりのチャンスが来たら、逃すんじゃないぞ。

「……なに？」

しほりだした声はかすれていた。早緑はうなずく。

「あの、こんなこと今言ってもしょうがないのかもしれない。六花のこと、こまらせたらごめん。でも、言わなきゃって、ずっとずっと、そう思ってた」

何重にも予防線を張るように前置きをしてから、早緑はためらいがちに言った。

「あたしさ……ほんとのこと言うと、毎日泣いてたんだ。あのころ」

泣いてた？

「……私とけんかしてから、ってこと？」

早緑は首を横にふった。

「ううん、ちがうちがう。そうじゃなくて、そのまえから」

「そっか……うん」

ちよっぴり期待して、それからがっかりした自分が、ひどくはずかしい。

つて……え？

「私とけんかする、まえ？」

早緑はうなずく。

「陸上部の練習が、いやでいやで。みんな、あたしよりずっと足が速くてさ。練習もきつくて、ぜんぜんついていけなかった。先輩せんぱいごわいし。しょっちゅうおこられてたし。ほんと、毎日毎日、つらくてしょうがなくて。家で

A 泣いてたの

私はとなりを見た。なつかしい、早緑の横顔。遠くを見つめる黒い瞳ひとまなこ。「でも、六花には言えなかった。そんなこと、ぜったい言えなかった。はずかしかったから。一生懸命いっしょうけんめい、絵を描いて、努力を楽しむことができる六花に、そんなこと、言えなかった。まぶしかったよ。あたしは六花のことが、ずっとまぶしかった……だからさ、あの日。あたし、責められてるような、そんな気がしちゃったんだよ」

――はかみたい。まじめにやらないなら、やめたらいいのに。

あの日、自分が放った言葉が、どこか遠くで響いた。

早緑はちいさく笑った。ぼつぼつ、抱えていた気持ちをこぼすように、言葉をつむぐ。

「あたしもさ、意地になっちゃって。あたしのことじゃないのに。六花がきずついていたの、わかってたのに。でも、あたしもさ、あのとき、ほんとにつらかった。大好きだった友だちに、自分のことを否定されているような、気持ちがしてさ。だから、あんなこと言っちゃった。六花に、ひどい言い方、しちゃった。ほんとうに……」

そう言っ、おずおずとこちらを見た早緑の顔が、固まる。

「六花？」

「……ごめん」

「え、いや、ごめんごめん。あの、なに？ 泣かないで。ちょっと……あ、ハンカチ」

あわあわとポケットをさぐる早緑。私はふるえていた。

景色がにじんで、ぼろぼろとこぼれて、息をするのもつらかった。

なにか、「わかりあえない」だ。

わがわがとしなかったのは、私のほうだった。

自分のことではいいっぱいで、早緑の気持ち、考えたこともなかった。

さんざん被害者ひがしやのような顔をしてたくせに、ほんとうに悪いのは私だった。

私、早緑のこと、きずつけてたんだ。

「ほら、ちょっと眼鏡外して。あ、鼻もたれてるよ、もう……」

そう言っ、私の顔をハンカチでぬぐう早緑。私はしゃくりあげながら、くり返す。

「ごめん。ごめんね、早緑。ほんとうにごめんなさい……ごめんなさい……」

「ううん、いいから。もういいんだよ。あたしこそ、ごめん……ああ、まずったな。泣かれると思わなかった。っていうか、六花も泣くんだね。はじめて見たよ」

あはは、と軽やかに笑う早緑。

なんだろう、私を取り乱したせいで、さっきまで緊張きんじやうしていた早緑のほうは、かえって落ちついたみたいだった。それがちょっとだけ頬ほに障る。

私はハンカチを顔に押しつけてくる早緑の手をぎゅつとにぎった。

4

うらみがましく、私はつぶやく。そんなことを言う資格、ひとつもないのに。

私のせいなのに。

「何度も言おうと思ったよ。だけど、うん……やっぱりさ、こういうのって、しかるべきときでもんがあるじゃん？」

「なに、それ」

ちいさくはなをすする私に、早緑はうなずいた。

「一年の三学期に、決めたの。その日、六花に会いに行こうと思った。ちゃんと、話をしなきゃって。だけど、美術部に行ってもいなくてさ。小畑先輩が、体育館に行ったよ、って教えてくれて。で、行ったんだけど、やっぱり話しかけられなかった」

早緑は思いたすような目をした。

「体育館で、剣道部が練習してて。ほら、ウサギ王子とかといっしょに、エビユヤ本多くんが大声出しながら竹刀でばしばしやっ
てて。で、すみっこで、それを見ながらさ、一心不乱って感じで、六花は絵を描いてた。もうさあ、眼鏡のおくで、目がきらきら
してて。あたし、思いたしたんだ」

「なにを？」

早緑は照れたように笑った。

「はじめて、六花に話しかけたときのこと。シロクマの絵がじょうずだねって、ほめたこと。六花の顔がバツと明るくなって、そ
れがびっくりするほどかわいらしくて。友だちになりたいって、思ったこと」

(中略)

「だからさ、あたしは思ったの」

公園のすみっこ。並んですわったベンチ。

夕日の光を浴びて、早緑は言った。

「やっぱり、がんばらなきゃだめだ、って。今、ここで逃げたくない。あたしには、まだ六花に話しかける資格がないや、って。
そのときの自分は、六花に誇れるような自分じゃなかったから。だから、がんばろう、って。次に六花と話すときは、胸を張れる
ような自分でいたかったから。そうなりたいと思えたから」

早緑は笑った。 B 、かがやくような顔で、笑った。

「それから、すこしずつ、あたし、陸上が好きになった。走ることが、つていうか、走ること打ちこむ自分のことが、好きに
なっていた。だから」

涙ですっかり塩っ辛い顔になった私に、早緑は言った。

「だから、今のあたしがあるのは、六花のおかげ」

私はうなずく。「今は、じゃあ、楽しい？」

「うん。すっこく。胸を張って、そう言えるよ。だからさ」
なかなかおもしろう。

照れたように、でもまっすぐにそう言った早緑の瞳の色に、私は思いたす。⁵
あの日、早緑が話しかけてきてくれたときのことを。

(出典 村上雅郁『きみの話を聞かせてくれよ』フレーベル館による)

問一

A・Bに入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア A Ⅱ だらだら B Ⅱ めらめらと

イ A Ⅱ ひそひそ B Ⅱ どきどきと

ウ A Ⅱ わんわん B Ⅱ さらさらと

エ A Ⅱ しくしく B Ⅱ びくびくと

オ A Ⅱ めそめそ B Ⅱ きらきらと

問二

線 a 「癪に障る」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 気に入らない

イ 安心する

ウ うらやましい

エ せつない

オ おもしろい

問三

線 b 「胸を張って」と同じように、次の□に入る漢字を一字ずつ書き入れて、「胸」をふくむ慣用句を完成させ
なさい。

⑦ 胸を□つ(意味…強く感動させる)

④ 胸が□む(意味…心配事などで苦しい思いをする)

問四——線1「しほりだした声はかすれていた」とありますが、なぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア けんかした日の話など聞きたくないのに、自分を氣遣うことなく話しかけてくる早緑に腹を立てたから。
イ 仲直りをするために勇気を出して早緑と向き合おうとしたものの、話を聞くのが怖くて緊張しているから。
ウ 何度も言い訳を繰り返して、自分が悪者にならないようにしようとする早緑の態度を不快に思ったから。
エ 親友のはずなのに、けんかくらいで自分をさけるようになった早緑の気持ちがわからずとまどったから。

問五——線2「ばかみたい。まじめにやらないなら、やめたいのに」とありますが、この言葉によって早緑はどんな気持ちになりましたか。——線部より後の本文中から三十一字で抜き出し、最初の五文字を答えなさい。(句読点等記号も一字に数える。以下の問いも同じ。)

問六——線3「景色がにじんで、ほろほろとこぼれて、息をするのもつらかった」とありますが、このときの六花の気持ち七十字以内で説明しなさい。

問七 4に入る内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 「……なんで、なんでせめないの」
イ 「……でも、早緑も泣いてたんでしょ」
ウ 「……ごめんなさい、わたしのせいだよね」
エ 「……もっと、もっとはやく言ってよ」
オ 「……そうだね、めんどうくさいよね」

問八——線5「私は思いますが、このときの六花の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 一心不乱に絵を描いていたころの情熱を思い出して、もっと努力しようと決意している。
イ 困難を乗り越えて自信を持った様子の早緑を見て、成長できたことをうらやましく思っている。
ウ 早緑が初めて話しかけてくれたときを思い出して、もう一度彼女と友だちになりたいと思っている。
エ 絵を描くことでしか周囲と関われなかった昔を思い出して、そんな自分はずかしく感じている。
オ 早緑が自分の才能を認めてくれていたと知って、けんかしてしまったことを後悔している。

三 次の各問いに答えなさい。

問一 次ののカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 今年はコウセツ量が多い。
- ② 石油は大切なシゲンだ。
- ③ ゴミが山中にスてられていた。
- ④ テレビのデンゲンを入れる。
- ⑤ 琵琶湖はシガ県にある。

問二 次のの漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 役所から書状が届いた。
- ② 名前を呼ばれてふり返る。
- ③ 限界まで挑戦する。
- ④ スポーツ大会が無事に閉幕した。
- ⑤ 神社には鏡が祭られている。

	問一		問二		問三		問四		問五		問六		問七		問八
	①		②		③		④		⑤		⑥		⑦		⑧
	①		②		③		④		⑤		⑥		⑦		⑧

	問一		問二		問三		問四		問五		問六		問七		問八
	①		②		③		④		⑤		⑥		⑦		⑧
	①		②		③		④		⑤		⑥		⑦		⑧

	問一		問二		問三		問四		問五		問六		問七		問八
	①		②		③		④		⑤		⑥		⑦		⑧
	①		②		③		④		⑤		⑥		⑦		⑧

↓ここにシールを貼ってください↓



2412100